

⑤ 予防

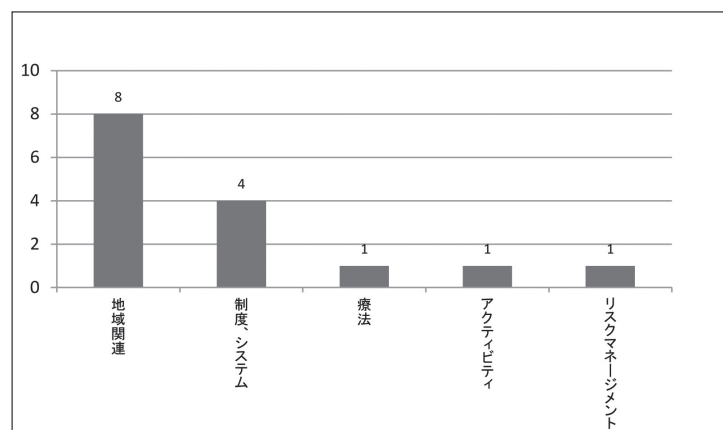
⑤-1 他の研究内容との重複

予防に関連する研究12件のうち重複している研究内容では「地域関連」の研究が最も多く8件(66.7%)となっており、次いで「制度、システム」に関連する研究が4件(33.3%)となっている。さらに、「療法」、「アクティビティ」、「リスクマネジメント」がそれぞれ1件(8.3%)となっている。

表⑤-1 他の研究内容との重複件数 (N=12)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
地域関連	8	66.70%
制度、システム	4	33.30%
療法	1	8.30%
アクティビティ	1	8.30%
リスクマネジメント	1	8.30%

図⑤-1 他の研究内容との重複状況 (N=12)



⑤-2 研究方法の傾向

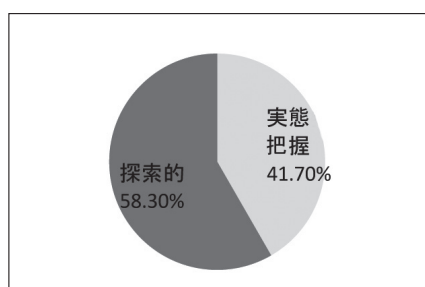
⑤-2-1 研究タイプ1の傾向

予防に関する研究12件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「探索的研究」が7件(58.3%)であり、「実態把握研究」が5件(41.7%)であった。予防に関する研究タイプは「探索的研究」がやや多いことがうかがえる。

表⑤-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	5	41.70%
探索的	7	58.30%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	12	100.00%

図⑤-2-1 研究タイプ1



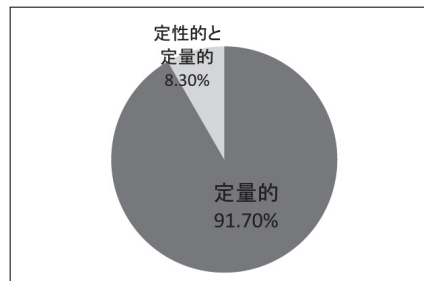
⑤-2-2 研究タイプ2の傾向

予防に関する研究12件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が11件(91.7%)であり、次いで「定性的と定量的研究」が1件(8.3%)となっており、「定性的研究」はなかった。

表⑤-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	0	0.00%
定量的	11	91.70%
定性的と定量的	1	8.30%
合計	12	100.00%

図⑤-2-2 研究タイプ2



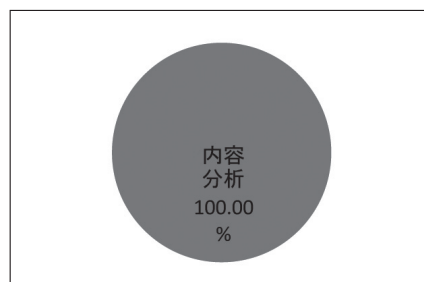
⑤-2-3 定性的研究の種類

定性的研究の種類においては「内容分析」が1件のみが記載されているのみであり、その他の研究種類はなかった。

表⑤-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	1	100.00%
会話分析	0	0.00%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	0	0.00%
ケーススタディ	0	0.00%
合計	1	100.00%

図⑤-2-3 定性的研究の種類



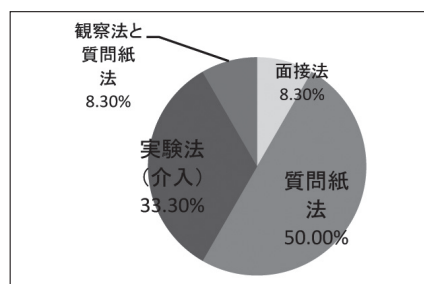
⑤-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、「質問紙法」が最も多く6件で50.0%であり、次いで「実験法(介入)」が4件33.3%となっている。さらに「面接法」、「観察法と質問紙法」がともに1件(8.3%)であった。

表⑤-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	0	0.00%
面接法	1	8.30%
質問紙法	6	50.00%
実験法(介入)	4	33.30%
その他	0	0.00%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	1	8.30%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	12	100.00%

図⑤-2-4 研究方法



⑤-2-5 観察法の種類

観察法の種類について、記載のあった研究は1件のみで「参与観察」であった。

表⑤-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	1	100.00%
非参与観察	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	1	100.00%

図⑤-2-5 観察法の種類



⑤-2-6 面接法の種類

面接法の種類について、記載のあった研究は1件のみで「構造的面接」のみであった。

表⑤-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	1	100.00%
半構造的面接	0	0.00%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	1	100.00%

図⑤-2-6 面接法の種類



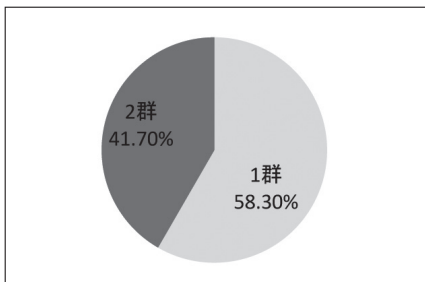
⑤-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、最も割合が高かったのは、「1群」であり7件(58.3%)であり、次いで「2群」が高く、5件(41.7%)であった。その他の群数はなかった。

表⑤-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	7	58.30%
2群	5	41.70%
3群	0	0.00%
4群	0	0.00%
合計	12	100.00%

図⑤-2-7 対象群数



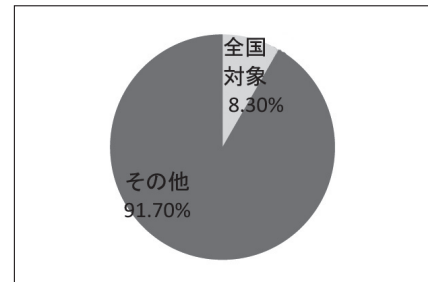
⑤-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲において、「全国対象」は1件のみで8.3%であり、「その他」は11件、91.7%であり、ほとんどが「その他」であった。

表⑤-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	1	8.30%
その他	11	91.70%
合計	12	100.00%

図⑤-2-8 対象範囲



⑤-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

予防の研究において、実施期間の平均は8件中131.25日であり、研究地域数の平均は8件中2.13地域であった。事業所数の平均は5件中228.40事業所であり、対象者人数の平均は12件中1062.42人であった。

表⑤-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間 (日)	8	30	360	131.25	113.318
研究地域数	8	1	5	2.13	1.553
事業所数	5	1	1137	228.4	507.923
対象者人数 (人)	12	12	9720	1062.42	2741.551

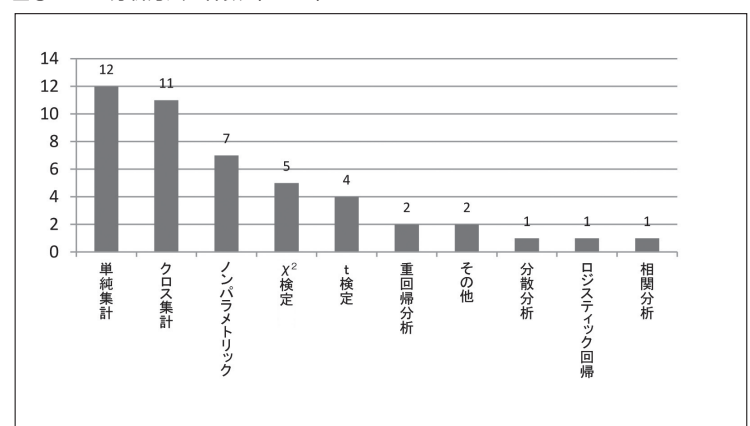
⑤-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が最も多く12件であり全ての研究の分析方法として扱われた。次いで「クロス集計」が11件、91.7%であり、さらに「ノンパラメトリック」が7件、58.3%、「 χ^2 検定」が5件、41.7%、「t検定」が4件、33.3%と続いている。さらに「重回帰分析」、「その他」がそれぞれ2件、16.7%となっている。

表⑤-2-10 分析方法の件数 (N=12)

分析方法分類	件数	重複割合 (%)
単純集計	12	100.00%
クロス集計	11	91.70%
ノンパラメトリック	7	58.30%
χ^2 検定	5	41.70%
t検定	4	33.30%
重回帰分析	2	16.70%
その他	2	16.70%
分散分析	1	8.30%
ロジスティック回帰	1	8.30%
相関分析	1	8.30%

図⑤-2-10 分析方法の件数 (N=12)



⑤ - 3 対象者属性の傾向

⑤ - 3 - 1 平均年齢

対象者属性の傾向として、記載のあった研究11件のうち平均年齢は74.709歳であり、標準偏差は7.2462歳である。最大値は81.4歳、最小値は55.0歳となっている。

表⑤ -3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
予防	74.709	11	7.2462	55.0	81.4

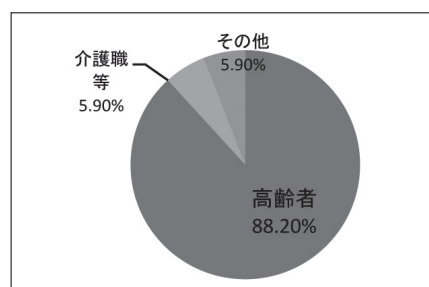
⑤ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性が「高齢者」が最も多く15件(88.2%)となっており、全体の9割近くを占めている。次いで、「介護職等」、「その他」がともに1件で5.9%であった。

表⑤ -3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	15	0	1	0	1	17
割合	88.20%	0.00%	5.90%	0.00%	5.90%	100.00%

図⑤ -3-2 対象者属性



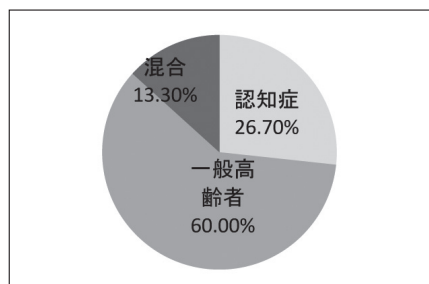
⑤ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者15件の中で、その内訳は、「一般高齢者」が最も多く9件(60.0%)であり、全体の6割が「一般高齢者」であった。さらに「認知症」が4件(26.7%)、「混合」が2件(13.3%)であった。その他の属性はなかった。

表⑤ -3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	4	0	9	2	15
割合	26.70%	0.00%	60.00%	13.30%	100.00%

図⑤ -3-3 高齢者属性



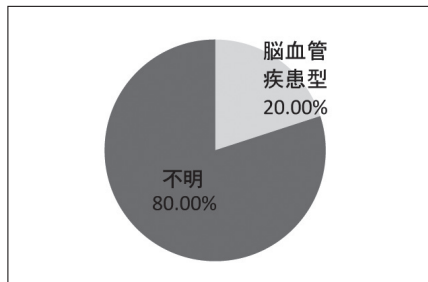
⑤ - 3 - 4 認知症種類の傾向

認知症の種類が記載されていたものは5件で、「不明」が4件であり、80.0%であった。他には「脳血管疾患型」であり1件(20.0%)であり、その他の種類はなかった。

表⑤ -3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型 (ピック)	不明	その他	合計
件数	0	1	0	0	4	0	5
割合	0.00%	20.00%	0.00%	0.00%	80.00%	0.00%	100.00%

図⑤ -3-4 認知症種類



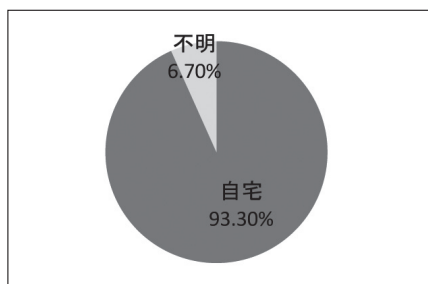
⑤ - 3 - 5 所在の傾向

所在については、「自宅」が14件であり、93.3%となっており、「自宅」が9割以上を占めている。他には「不明」が1件(6.7%)であった。

表⑤ -3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	14	0	0	0	1	15
割合	93.30%	0.00%	0.00%	0.00%	6.70%	100.00%

図⑤ -3-5 所在



⑤-3-6 利用サービスの傾向

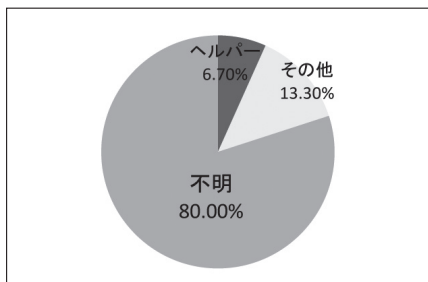
予防においての利用サービスについての傾向は、「不明」が12件であり、80.0%であった。他にヘルパーが1件(6.7%)、その他が2件(13.3%)であった。

表⑤-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	1	0	0	0	0	0	0
割合	6.70%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅サー ビス複数利用	不明	合計
0	2	0	0	0	0	12	15
0.00%	13.30%	0	0	0	0	80.00%	100.00%

図⑤-3-6 利用サービス



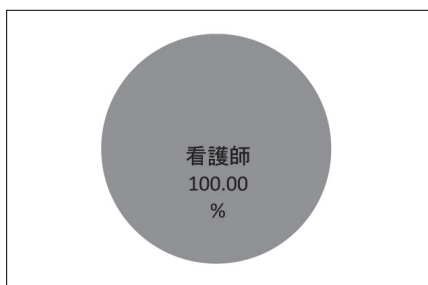
⑤-3-7 職員種別の傾向

職員種別について記載のあった研究は「看護師」のみで1件だけであり、その他の記載はなかった。

表⑤-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	0	0	1	0	0	0	0
割合	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
	介護・看護職	複数職種	合計				
件数	0	0	1				
割合	0.00%	0.00%	100.00%				

図⑤-3-7 職員種別



⑥地域関連

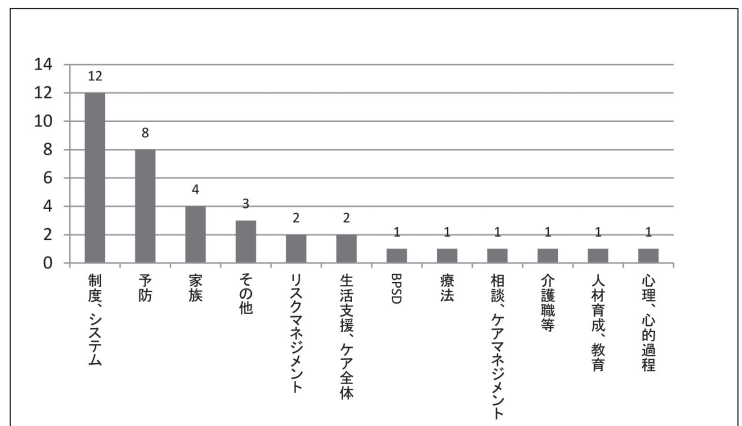
⑥-1 他の研究内容との重複

地域関連に関連する研究27件のうち重複している研究内容では、「制度、システム」の研究が最も多く12件(44.4%)となっており、次いで「予防」に関連する研究が8件(29.6%)となっている。さらに、「家族」が4件(14.8%)となっている。

表⑥-1 他の研究内容との重複件数 (N=27)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
制度、システム	12	44.40%
予防	8	29.60%
家族	4	14.80%
その他	3	11.10%
リスクマネジメント	2	7.40%
生活支援、ケア全体	2	7.40%
BPSD	1	3.70%
療法	1	3.70%
相談、ケアマネジメント	1	3.70%
介護職等	1	3.70%
人材育成、教育	1	3.70%
心理、心的過程	1	3.70%

図⑥-1 他の研究内容との重複状況 (N=27)



⑥-2 研究方法の傾向

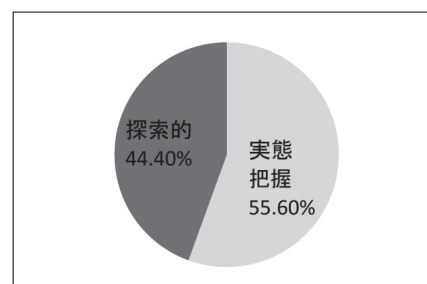
⑥-2-1 研究タイプ1の傾向

地域関連に関する研究27件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「実態把握研究」が15件(55.6%)であり、「探索的研究」が12件(44.4%)であった。地域関連に関する研究タイプは「実態把握研究」がやや多いことがうかがえる。

表⑥-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	15	55.60%
探索的	12	44.40%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	27	100.00%

図⑥-2-1 研究タイプ1



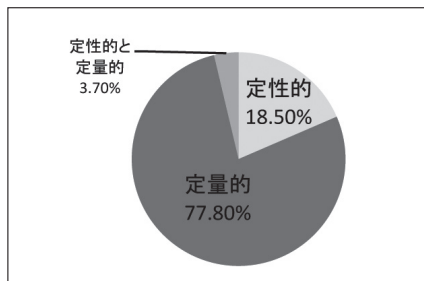
⑥-2-2 研究タイプ2の傾向

地域関連に関する研究27件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が21件(77.8%)であり全体の3/4を超えている。次いで「定性的研究」が5件(18.5%)となっており、「定性的と定量的研究」は1件(3.7%)であった。

表⑥-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	5	18.50%
定量的	21	77.80%
定性的と定量的	1	3.70%
合計	27	100.00%

図⑥-2-2 研究タイプ2



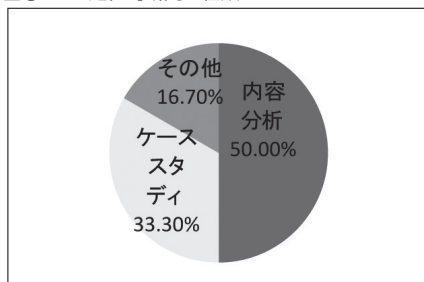
⑥-2-3 定性的研究の種類

定性的研究の6件のうち、その研究種類においては「内容分析」が3件(50.0%)であり、全体の半分以上を占める。他には「ケーススタディ」が2件(33.3%)、「その他」が1件(16.7%)となっている。

表⑥-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	3	50.00%
会話分析	0	0.00%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	0	0.00%
ケーススタディ	2	33.30%
その他	1	16.70%
合計	6	100.00%

図⑥-2-3 定性的研究の種類



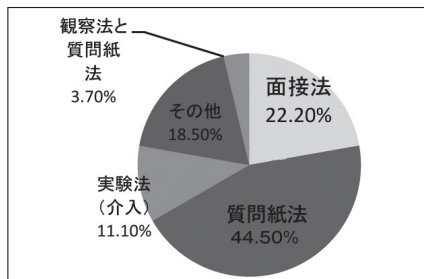
⑥-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、「質問紙法」が最も多く12件で44.4%であり、次いで「面接法」が6件(22.2%)となっている。さらに「その他」が5件(18.5%)、「実験法(介入)」が3件(11.1%)であり、「観察法と質問紙法」が1件(3.7%)であった。

表⑥-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	0	0.00%
面接法	6	22.20%
質問紙法	12	44.40%
実験法(介入)	3	11.10%
その他	5	18.50%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	1	3.70%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	27	100.00%

図⑥-2-4 研究方法



⑥-2-5 観察法の種類

観察法の種類について、記載のあった研究は1件のみで「参与観察」であった。

表⑥-2-5 観察法の種類

	件数	割合
参与観察	1	100.00%
非参与観察	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	1	100.00%

図⑥-2-5 観察法の種類



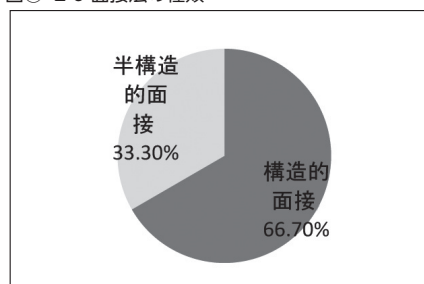
⑥-2-6 面接法の種類

面接法の種類について、「構造的面接」が4件であり、66.7%であった。次いで「半構造的面接」が2件(33.3%)であり、他の種類はなかった。

表⑥-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	4	66.70%
半構造的面接	2	33.30%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	6	100.00%

図⑥-2-6 面接法の種類



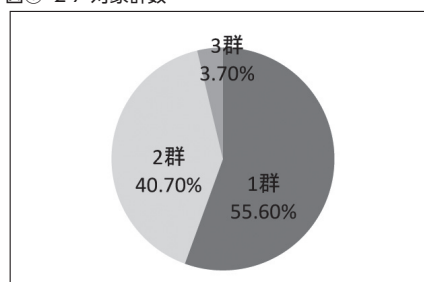
⑥-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、最も割合が高かったのは、「1群」であり15件(55.6%)であり、次いで「2群」が高く、11件(40.7%)であった。さらに「3群」が1件(3.7%)であった。

表⑥-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	15	55.60%
2群	11	40.70%
3群	1	3.70%
4群	0	0.00%
合計	27	100.00%

図⑥-2-7 対象群数



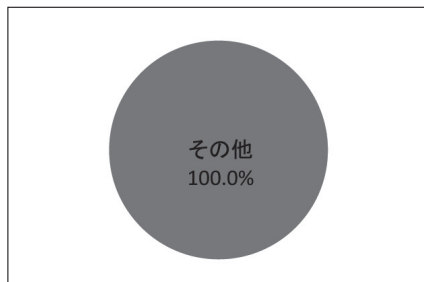
⑥-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲において、27件の中で「全国対象」は全くなく、「その他」のみであった。

表⑥-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	0	0.00%
その他	27	100.00%
合計	27	100.00%

図⑥-2-8 対象範囲



⑥-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

地域関連の研究において、実施期間の平均は16件中682.56日であり、研究地域数の平均は25件中1.96地域であった。事業所数の平均は8件中5.50事業所であり、対象者人数の平均は26件中3247.92人であった。

表⑥-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間（日）	16	13	3240	682.56	1009.27
研究地域数	25	1	11	1.96	2.071
事業所数	8	1	31	5.50	10.47
対象者人数（人）	26	9	75662	3247.92	14781.019

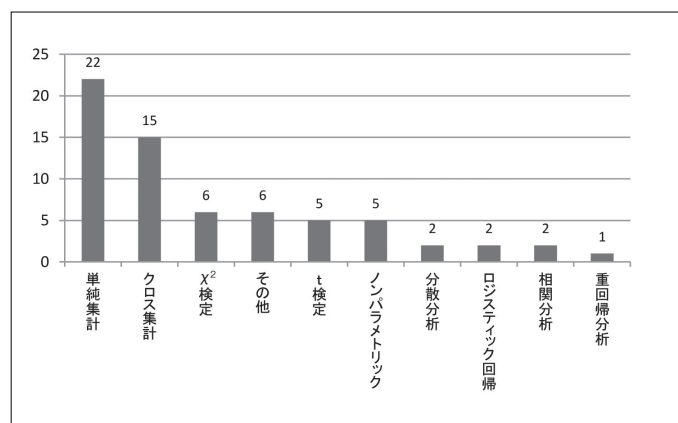
⑥-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が最も多く22件であり、81.5%であった。次いで「クロス集計」が15件、55.6%であり、さらに「 χ^2 検定」が6件、22.2%、「その他」が6件、22.2%、「t検定」、「ノンパラメトリック」がともに5件、18.5%と続いている。

表⑥-2-10 分析方法の件数 (N=27)

分析方法分類	件数	重複割合 (%)
単純集計	22	81.50%
クロス集計	15	55.60%
χ^2 検定	6	22.20%
その他	6	22.20%
t検定	5	18.50%
ノンパラメトリック	5	18.50%
分散分析	2	7.40%
ロジスティック回帰	2	7.40%
相関分析	2	7.40%
重回帰分析	1	3.70%

図⑥-2-10 分析方法の件数 (N=27)



⑥ - 3 対象者属性の傾向

⑥ - 3 - 1 平均年齢

対象者属性の傾向として、記載のあった研究19件のうち平均年齢は73.911歳であり、標準偏差は9.2958歳である。最大値は82.2歳、最小値は45.7歳となっている。

表⑥ -3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
地域関連	73.911	19	9.2958	45.7	82.2

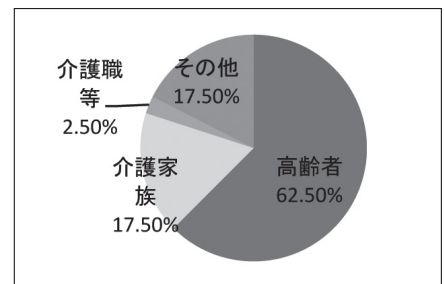
⑥ - 3 - 2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性が「高齢者」が最も多く25件(62.5%)となっており、次いで、「介護家族」が7件(17.5%)、「その他」が7件(17.5%)であり、「介護職等」が1件で2.5%であった。

表⑥ -3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	25	7	1	0	7	40
割合	62.50%	17.50%	2.50%	0.00%	17.50%	100.00%

図⑥ -3-2 対象者属性



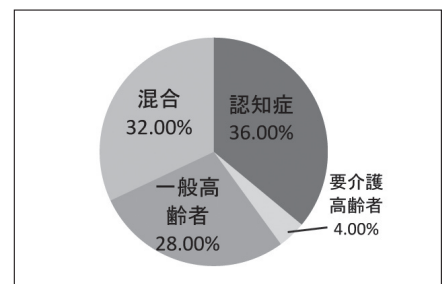
⑥ - 3 - 3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者25件の中で、その内訳は、「認知症」が最も多く9件(36.0%)であり、次いで「混合」が8件で32.0%、さらに「一般高齢者」が7件(28.0%)、「要介護高齢者」が1件(4.0%)であった。

表⑥ -3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	9	1	7	8	25
割合	36.00%	4.00%	28.00%	32.00%	100.00%

図⑥ -3-3 高齢者属性



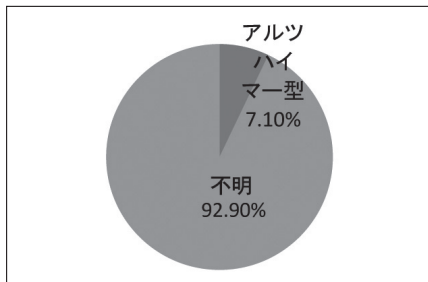
⑥-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、「不明」が13件、92.9%であり、ほとんどが「不明」であった。他には「アルツハイマー型」が1件(7.1%)であり、他の種類はなかった。

表⑥-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型 (ピック)	不明	その他	合計
件数	1	0	0	0	13	0	14
割合	7.10%	0.00%	0.00%	0.00%	92.90%	0.00%	100.00%

図⑥-3-4 認知症種類



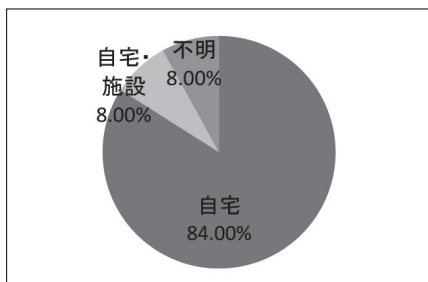
⑥-3-5 所在の傾向

所在については、「自宅」が21件であり、84.0%となっており、「自宅」が8割以上を占めている。他には「自宅・施設」、「不明」がともに2件で8.0%であった。

表⑥-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	21	0	0	2	2	25
割合	84.00%	0.00%	0.00%	8.00%	8.00%	100.00%

図⑥-3-5 所在



⑥-3-6 利用サービスの傾向

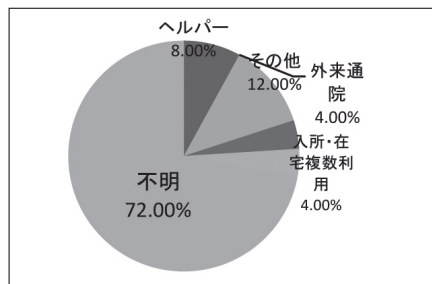
利用サービスについての傾向は、地域関連においては、「不明」が18件であり、72.0%であった。他に「その他」が3件(12.0%)、「ヘルパー」が2件(8.0%)、「外来通院」が1件(4.0%)であった。

表⑥-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	2	0	0	0	0	0	0
割合	8.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅系サー ビス複数利用	不明	合計
件数	0	3	1	0	0	1	18	25
割合	0.00%	12.00%	4.00%	0.00%	0.00%	4.00%	72.00%	100.00%

図⑥-3-6 利用サービス



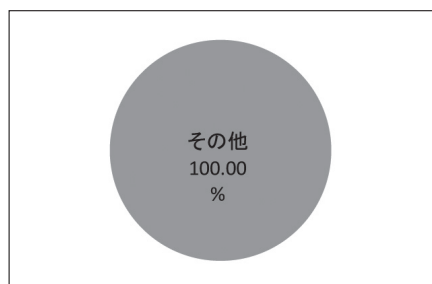
⑥-3-7 職員種別の傾向

職員種別について記載のあった研究は「その他」のみで1件であり、他の記載はなかった。

表⑥-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	0	0	0	0	0	0	1
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
	介護・看護職	複数職種	合計				
件数	0	0	1				
割合	0.00%	0.00%	100.00%				

図⑥-3-7 職員種別



⑦権利擁護

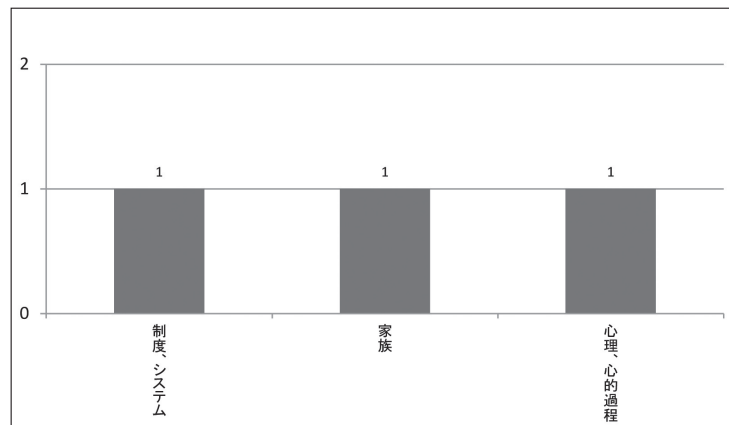
⑦-1 他の研究内容との重複

権利擁護に関連する研究2件のうち重複している研究内容では、「制度、システム」、「家族」、「心理、心的過程」の研究がそれぞれ1件のみであり、それぞれ50.0%となっている。

表⑦-1 他の研究内容との重複件数 (N=2)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
制度、システム	1	50.00%
家族	1	50.00%
心理、心的過程	1	50.00%

図⑦-1 他の研究内容との重複状況 (N=2)



⑦-2 研究方法の傾向

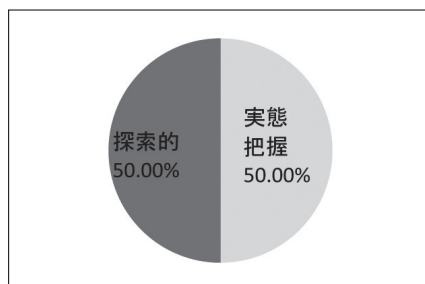
⑦-2-1 研究タイプ1の傾向

権利擁護に関する研究2件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「実態把握研究」が1件(50.0%)であり、「探索的研究」が1件(50.0%)であった。

表⑦-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	1	50.00%
探索的	1	50.00%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	2	100.00%

図⑦-2-1 研究タイプ1



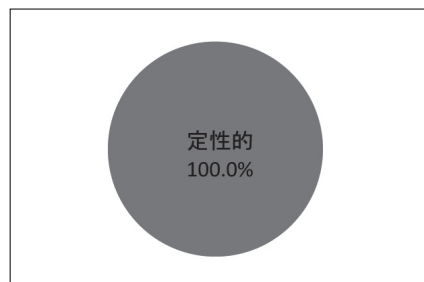
⑦-2-2 研究タイプ2の傾向

権利擁護に関する研究2件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定性的研究」のみであり、他の研究タイプはなかった。

表⑦-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	2	100.00%
定量的	0	0.00%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	2	100.00%

図⑦-2-2 研究タイプ2



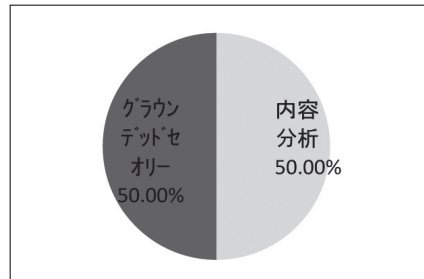
⑦-2-3 定性的研究の種類

定性的研究の2件のうち、その研究種類においては「内容分析」、「グラウンデッドセオリー」がともに1件(50.0%)であった。他の研究種類はなかった。

表⑦-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	1	50.00%
会話分析	0	0.00%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	1	50.00%
ケーススタディ	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	2	100.00%

図⑦-2-3 定性的研究の種類



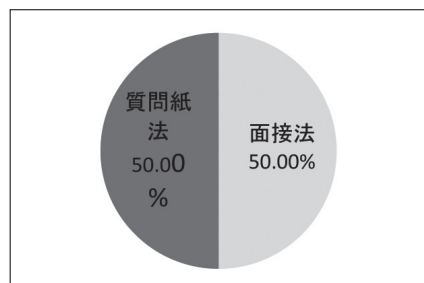
⑦-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、「面接法」、「質問紙法」がともに1件ずつ、それぞれ50.0%であった。他の研究方法はなかった。

表⑦-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	0	0.00%
面接法	1	50.00%
質問紙法	1	50.00%
実験法(介入)	0	0.00%
その他	0	0.00%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	2	100.00%

図⑦-2-4 研究方法



⑦-2-5 観察法の種類

観察法の種類について、観察方法の記載はなかったため、種類の結果は得られなかった。

⑦-2-6 面接法の種類

面接法の種類について、面接方法の記載のあった研究は1件のみであり、種類は「半構造的面接」であった。

表⑦-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	0	0.00%
半構造的面接	1	100.00%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	1	100.00%

図⑦-2-6 面接法の種類



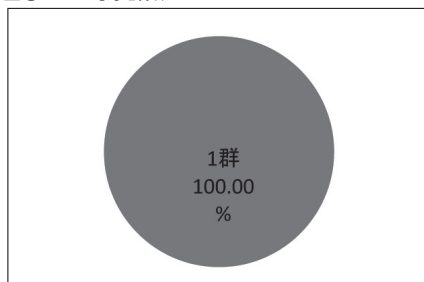
⑦-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、研究2件は全て「1群」を対象群数としていた。

表⑦-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	2	100.00%
2群	0	0.00%
3群	0	0.00%
4群	0	0.00%
合計	2	100.00%

図⑦-2-7 対象群数



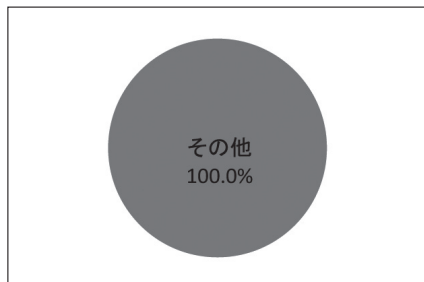
⑦-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲において、2件の中で「全国対象」は全くなく、「その他」のみであった。

表⑦-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	0	0.00%
その他	2	100.00%
合計	2	100.00%

図⑦-2-8 対象範囲



⑦-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

権利擁護の研究において、実施期間の平均は2件中180.00日であり、研究地域数の平均は2件であり、1.00地域であった。事業所数については研究に記載がなかった。対象者人数の平均は2件中1359.00人であった。

表⑦-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間（日）	2	60	300	180.00	169.706
研究地域数	2	1	1	1.00	0.00
事業所数	0	0	0	0.00	0.00
対象者人数（人）	2	10	2708	1359.00	1907.774

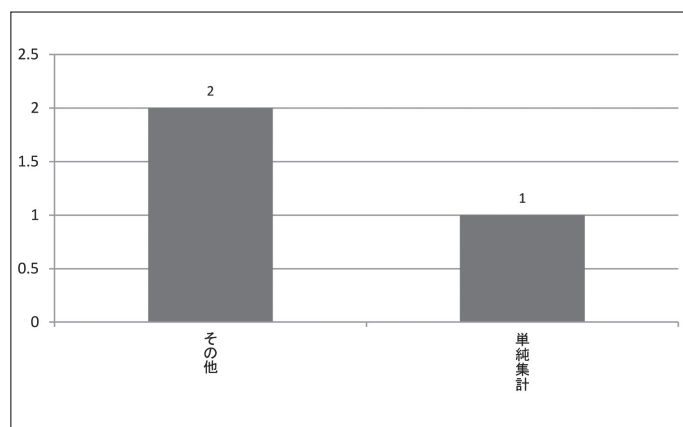
⑦-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「その他」の方法が2件全ての分析に用いられ、「単純集計」は1件で50.0%であった。

表⑦-2-10 分析方法の件数 (N=2)

分析方法分類	件数	重複割合 (%)
その他	2	100.00%
単純集計	1	50.00%

図⑦-2-10 分析方法の件数 (N=2)



⑦-3 対象者属性の傾向

⑦-3-1 平均年齢

平均年齢の傾向として、研究2件のうち平均年齢は74.850歳であり、標準偏差は1.6263歳である。最大値は76.0歳、最小値は73.7歳となっている。

表⑦-3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
権利擁護	74.850	2	1.6263	73.7	76.0

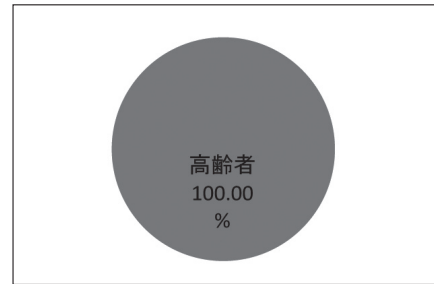
⑦-3-2 対象者属性の傾向

対象者属性について、対象者の属性は「高齢者」のみであり2件であった。

表⑦-3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	2	0	0	0	0	2
割合	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑦-3-2 対象者属性



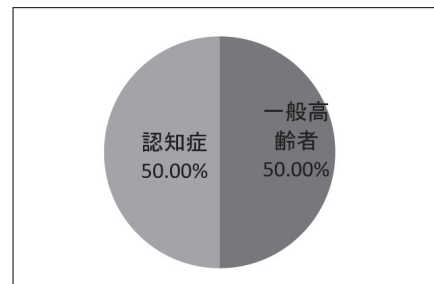
⑦-3-3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者2件の中で、その内訳は、「認知症」、「一般高齢者」がそれぞれ1件ずつであった。

表⑦-3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	1	0	1	0	2
割合	50.00%	0.00%	50.00%	0.00%	100.00%

図⑦-3-3 高齢者属性



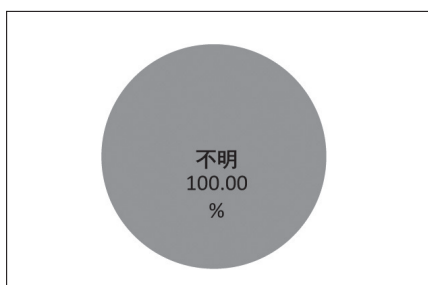
⑦-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、高齢者属性が「認知症」だった研究は1件のみで、種類は「不明」であった。

表⑦-3-4 認知症種類

	アルツハイマー型	脳血管疾患型	レビー小体型	前頭側頭型(ピック)	不明	その他	合計
件数	0	0	0	0	1	0	1
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%

図⑦-3-4 認知症種類



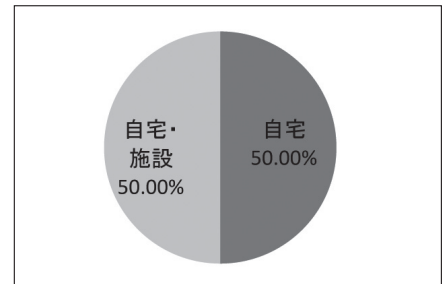
⑦-3-5 所在の傾向

所在については、「自宅」、「自宅・施設」がそれぞれ1件ずつであった。

表⑦-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院)	その他	自宅・施設	合計
件数	1	0	0	1	2
割合	50.00%	0.00%	0.00%	50.00%	100.00%

図⑦-3-5 所在



⑦-3-6 利用サービスの傾向

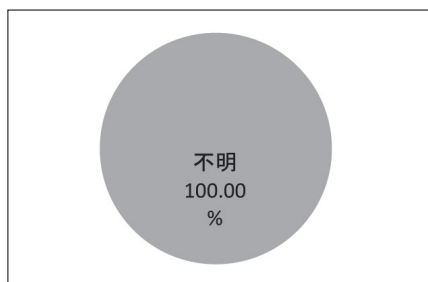
利用サービスについての傾向は、権利擁護においては、2件ともに「不明」であった。

表⑦-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	0	0	0	0	0	0	0
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

	グループホーム	その他	外来通院	入所系サービス 複数利用	在宅系サービス 複数利用	入所・在宅系サー ビス複数利用	不明	合計
件数	0	0	0	0	0	0	2	2
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	100.00%

図⑦-3-6 利用サービス



⑧虐待

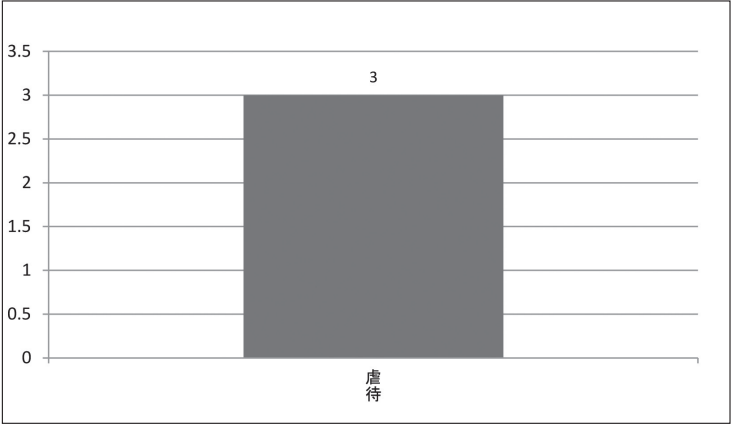
⑧-1 他の研究内容との重複

虐待に関連する研究3件のうち重複している研究内容はなかった。

表⑧-1 他の研究内容との重複件数 (N=3)

研究内容分類	件数	重複割合 (%)
虐待	3	100.00%

図⑧-1 他の研究内容との重複状況 (N=3)



⑧-2 研究方法の傾向

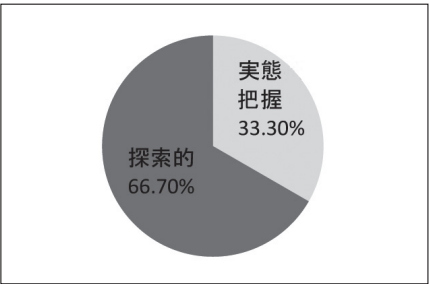
⑧-2-1 研究タイプ1の傾向

虐待に関する研究3件における研究タイプ1別の件数及び比率は、「探索的研究」が2件(66.7%)であり、「実態把握研究」が1件(33.3%)であった。

表⑧-2-1 研究タイプ1

	件数	割合
実態把握	1	33.30%
探索的	2	66.70%
仮説検証型	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	3	100.00%

図⑧-2-1 研究タイプ1



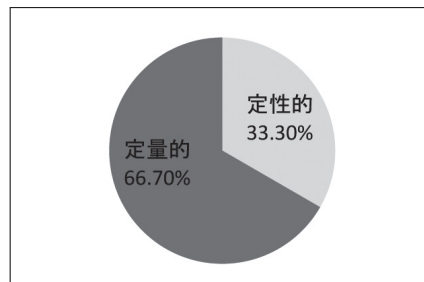
⑧-2-2 研究タイプ2の傾向

虐待に関する研究3件における研究タイプ2別の件数及び比率は、「定量的研究」が2件(66.7%)で、「定性的研究」が1件(33.3%)である。

表⑧-2-2 研究タイプ2

	件数	割合
定性的	1	33.30%
定量的	2	66.70%
定性的と定量的	0	0.00%
合計	3	100.00%

図⑧-2-2 研究タイプ2



⑧-2-3 定性的研究の種類

定性的研究の1件のうち、その研究種類は「その他」のみであった。

表⑧-2-3 定性的研究の種類

	件数	割合
内容分析	0	0.00%
会話分析	0	0.00%
エスノメソドロジー	0	0.00%
グラウンデッドセオリー	0	0.00%
ケーススタディ	0	0.00%
その他	1	100.00%
合計	1	100.00%

図⑧-2-3 定性的研究の種類



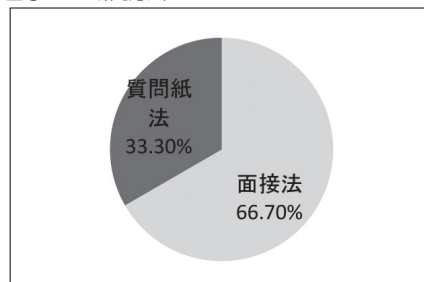
⑧-2-4 研究方法の傾向

研究方法において、「面接法」が2件(66.7%)であり、「質問紙法」が1件(33.3%)であった。他の研究方法はなかった。

表⑧-2-4 研究方法

	件数	割合
観察法	0	0.00%
面接法	2	66.70%
質問紙法	1	33.30%
実験法(介入)	0	0.00%
その他	0	0.00%
観察法と面接法	0	0.00%
観察法と質問紙法	0	0.00%
面接法と質問紙法	0	0.00%
面接法とその他の方法	0	0.00%
質問紙法と介入法	0	0.00%
観察法と面接法と質問紙法	0	0.00%
観察法と質問紙法とその他の方法	0	0.00%
合計	3	100.00%

図⑧-2-4 研究方法



⑧-2-5 観察法の種類

観察法の種類について、観察法を用いた研究がなかったため、種類の結果は得られなかった。

⑧-2-6 面接法の種類

面接法の種類について、面接方法の記載のあった研究は2件のみであり、種類は「半構造的面接」のみであった。

表⑧-2-6 面接法の種類

	件数	割合
構造的面接	0	0.00%
半構造的面接	2	100.00%
グループインタビュー	0	0.00%
その他	0	0.00%
合計	2	100.00%

図⑧-2-6 面接法の種類



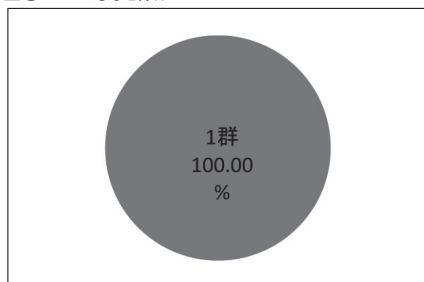
⑧-2-7 対象群数の傾向

対象群数において、研究3件は全て「1群」を対象群数としていた。

表⑧-2-7 対象群数

	件数	割合
1群	3	100.00%
2群	0	0.00%
3群	0	0.00%
4群	0	0.00%
合計	3	100.00%

図⑧-2-7 対象群数



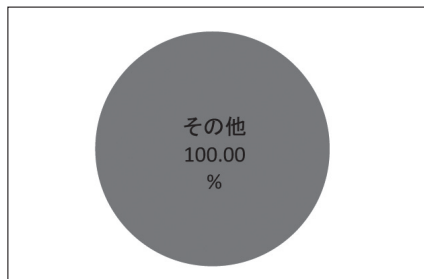
⑧-2-8 対象範囲の傾向

対象範囲において、3件の中で「全国対象」は全くなく、「その他」のみであった。

表⑧-2-8 対象範囲

	件数	割合
全国対象	0	0.00%
その他	3	100.00%
合計	3	100.00%

図⑧-2-8 対象範囲



⑧-2-9 研究方法の基本属性に関する傾向

虐待の研究において、実施期間の平均は2件中45.00日であり、研究地域数は3件全てが1.00地域であった。事業所数については2件中、平均値は39.50事業所であった。対象者人数の平均は3件中122.67人であった。

表⑧-2-9 研究方法の基本属性に関する平均値

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
実施期間（日）	2	30	60	45.00	21.213
研究地域数	3	1	1	1.00	0.00
事業所数	2	1	78	39.50	54.447
対象者人数（人）	3	10	280	122.67	140.433

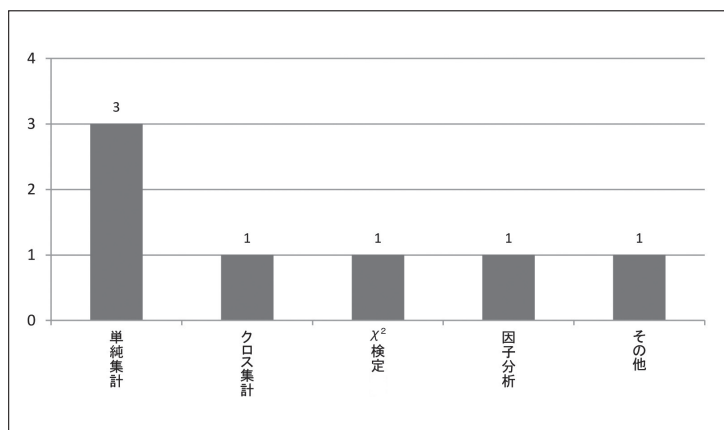
⑧-2-10 分析方法の件数

分析方法の件数は、「単純集計」が3件全ての研究で行っており、次いで「クロス集計」、「 χ^2 検定」、「因子分析」、「その他」がそれぞれ1件で33.3%であった。

表⑧-2-10 分析方法の件数 (N=3)

分析方法分類	件数	重複割合 (%)
単純集計	3	100.00%
クロス集計	1	33.30%
χ^2 検定	1	33.30%
因子分析	1	33.30%
その他	1	33.30%

図⑧-2-10 分析方法の件数 (N=3)



⑧-3 対象者属性の傾向

⑧-3-1 平均年齢

対象者属性の傾向として、平均年齢の記載のある研究は1件のみで、64.600歳であり、最大値、最小値ともに64.6歳となっている。

表⑧-3-1 平均年齢

	平均値	度数	標準偏差	最小値	最大値
虐待	64.600	1	.	64.6	64.6

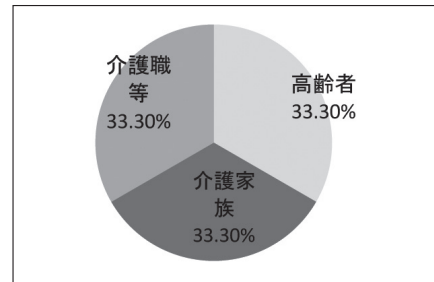
⑧-3-2 対象者属性の傾向

対象者属性について、「高齢者」、「介護家族」、「介護職等」がそれぞれ1件ずつであり、33.3%となっている。他の属性はなかった。

表⑧-3-2 対象者属性

	高齢者	介護家族	介護職等	学生	その他	合計
件数	1	1	1	0	0	3
割合	33.30%	33.30%	33.30%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑧-3-2 対象者属性



⑧-3-3 高齢者属性の傾向

対象者属性が高齢者1件の詳細は、「要介護高齢者」であった。

表⑧-3-3 高齢者属性

	認知症	要介護高齢者	一般高齢者	混合	合計
件数	0	1	0	0	1
割合	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑧-3-3 高齢者属性



⑧-3-4 認知症種類の傾向

認知症の種類について、高齢者属性のうち「認知症」はなかった。

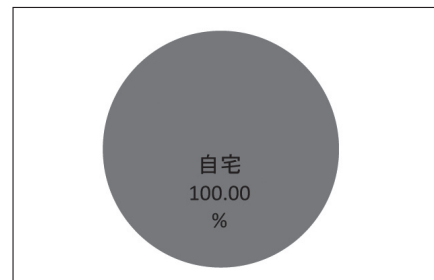
⑧-3-5 所在の傾向

所在については、所在のある研究は1件のみで「自宅」であった。

表⑧-3-5 所在

	自宅	施設入所 (病院含)	その他	自宅・施設	不明	合計
件数	1	0	0	0	0	1
割合	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%

図⑧-3-5 所在



⑧-3-6 利用サービスの傾向

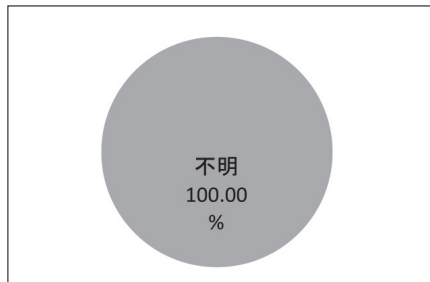
利用サービスについての傾向は、虐待においては、1件のみで「不明」のみであった。

表⑧-3-6 利用サービス

	ヘルパー	デイサービス	デイケア	小規模多機能	老人ホーム	老人保健施設	病院入院
件数	0	0	0	0	0	0	0
割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

グループホーム	その他	外来通院	入所サービス 複数利用	在宅サービス 複数利用	入所・在宅サー ビス複数利用	不明	合計
0	0	0	0	0	0	1	1
0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	100.00%

図⑧-3-6 利用サービス



⑧-3-7 職員種別の傾向

職員種別については記載のあった研究は1件のみで、種別は「医師」であった。

表⑧-3-7 職員種別

	介護職員	ケアマネ	看護師	医師	相談員	ホームヘルパー	その他
件数	0	0	0	1	0	0	0
割合	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	0.00%

介護・看護職	複数職種	合計
0	0	1
0.00%	0.00%	100.00%

図⑧-3-7 職員種別

